



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
12/16 (月)	▲ 2,000	▲ 5,000	▲ 7,000	国債発行償還 (個人向け) 国庫短期証券償還 (3M)	国債補充供給 + 3,200 国債買入 + 11,600		欧: ラガルドECB総裁、会見
12/17 (火)	▲ 3,000	+ 5,000	+ 2,000				米: FOMC (1日目)
12/18 (水)	▲ 2,000	▲ 10,000	▲ 12,000	国債発行 (20年)			日: 日銀金融政策決定会合 (1日目) 米: FOMC (2日目)
12/19 (木)	▲ 2,000	▲ 1,000	▲ 3,000				日: 日銀金融政策決定会合 (2日目) 米: GDP (3Q・速報値)
12/20 (金)	▲ 3,000	+ 52,000	+ 49,000	利払い 国債償還(5年・10年・20年) 国庫短期証券償還 (1Y)			日: 全国CPI (11月) 米: 個人消費支出 (11月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆6,400億円減少の527兆3,900億円から始まった。その後、国債買入オペや貸出増加支援オペ、国債発行、年金定時払い等の要因により増減し、13日は531兆1,000億円 (速報) で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.227%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばいで推移した。

ターム物は1W~3W物0.227%~0.39%のレンジ、1M~3M物0.45%~0.58%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では、18・19日に日銀金融政策決定会合が開催、20日に全国CPI (11月) の発表。海外では17・18日にFOMCが開催、20日に米PCE (11月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.220 ~ 0.228
1M	0.35 ~ 0.45
2M	0.35 ~ 0.55
3M	0.40 ~ 0.60
6M	0.50 ~ 0.65

<レポ>

足許GC取引は週を通して+0.24%~+0.25%の出合いが中心となった。輪番オペがオファーされた9日と13日も水準に変化は見られず、狭いレンジで取引が行われた。

SC取引は2年460~467回債、5年149~174回債、10年355~371回債、20年190回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12 ~ 0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆4,200億円で、週間償還額の1兆6,900億円を下回った。発行残高は先週末時点の26兆5,655億円から、12月12日時点で25兆9,413億円に減少した。

発行市場は、機械、電気機器、鉄鋼、ガス業、卸売業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%台前半から0.50%台後半での出合いとなった。12月の日銀決定会合での追加利上げに対する投資家の警戒感から、投資家が運用金利を見定める局面が続いており、発行レートが上昇している。

来週の償還額は、2兆2,000億円となっている。発行市場は、年末の資金需要でのCPの利用が想定され、相応の発行が見込まれる。発行レートは、1M物から3M物で0.30%台後半から、レートの上昇余地を探る展開が予想される。

<TDB>

9日の6M (1274回債) の入札は、最高落札利回り0.3073% (前回債0.2007%)、平均落札利回り0.2952% (前回債0.1886%) となった。

13日の3M (1275回債) の入札は、最高落札利回り0.1546% (前回債0.1583%)、平均落札利回り0.1453% (前回債0.1475%) となった。

来週の入札は、18日に1Y、20日に3Mが予定されている。